

ISO14001認証取得をしている弊社では、ホームページ (<http://www.kankyonet.com/>) と運動して啓発活動をしています

環境ネット・コムでは先月まで5回に渡り、郡山市で川の浄化活動を行っている団体を紹介してきました。今回は、EMを使った水環境保全活動に取り組む、EM・エコ郡山の武藤信義さんにお話を伺いました。

EMを活用した、環境にやさしい水質浄化活動

ごみ拾いや草むしり、花壇の整備などで河川の景観改善は計れます。しかし、川の水質改善となると難しい問題になります。というのも、米のとぎ汁、洗濯排水などの各家庭から出る生活排水が一番川を汚しているからです。それを改善するためには、各家庭への働きかけが必要。しかし、毎日出てしまう生活排水。川の水質をもとから改善する問題は、以前からさまざま研究がなされていますが、今まで確固たる方法がないのが現状でした。しかし近年、ある発見をしたことから、水質浄化に効果があると注目され始めたのがEMです。そのEMを使った水環境保全活動に取り組む、NPO法人「EM・エコ郡山」の武藤信義さんにお話を伺いました。



▲EM・エコ郡山 武藤信義理事長

EMとは、「Effective (有用) Microorganism (微生物群)」の略で、人間にも自然環境にも役立つ微生物群です。「EMは、パンやヨーグルト、納豆、味噌、酒を作るこうじ菌、乳酸菌・酵母菌の集まりなのです。あまりなじみのない言葉なので、新しく作った人工的物質と思いがちですが、これらの菌は大昔から

自然界にあったもの。私たちの身の回りにいる約80種類の微生物、いわゆる善玉菌を集めたものがEMです」と武藤さんは言います。「川を一番汚しているのは生活排水です。しかし、生活排水は昔から川に流されているものですよ。ね。では、なぜ昔はきれいな川のままいられたのでしょうか？そこには、洗剤などの合成化学物質の増加が関係しています。殺菌作用のある化学物質が増えたために、もともと川にいた微生物が減少。本来なら自然生態系の営みとして自然浄化できていたのに、最近では賄いきれず、川の汚れにつながっているのです」。そうした現状を受け、武藤さんは今まで、南川溪谷、亀田川、安達太良川などにEMを放流し続けてきました。「EMを川に放流するということは、私たちの日常生活によって破壊してしま



▲亀田川に自分たちで作ったEMを放流する桑野小学校の生徒たち

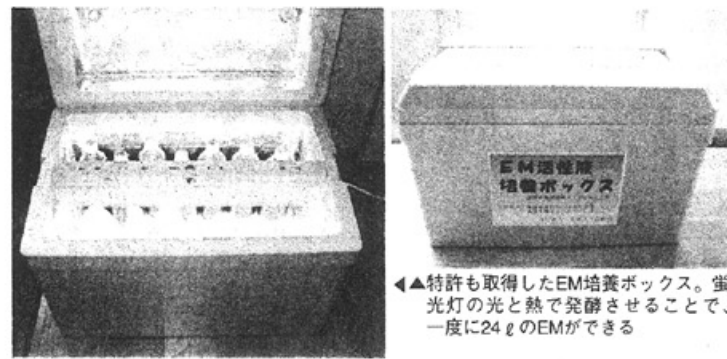
った微生物層を取り戻すということ。自ら浄化する、昔のきれいな川に戻すということですね」。EMに含まれる微生物群は、硫化水素やアンモニア、メタンガス、汚れやアカなどの有害物質を分解し、腐敗菌の繁殖をおさえてくれます。EMを流した川では、悪臭が消え、川底を覆っていたミズワタがすべてはがれるなど、水質が改善されているそうです。「南川溪谷では、大腸菌の計測値が5万4000から7900へと大幅に減少。小魚が群をなして泳いでいる姿も見られるようになりました」と武藤さん。



▲EMを流し始めて、ヘッドロが減少。川に魚が戻った

は、多くの人にEMの効果を知ってもらいたいという思いから、郡山市内の小中学校計61校に培養ボックスを寄贈しました。「EMは、1ℓのペットボトル1本で約55円。これで、掃除や洗濯などさまざまなおことに利用できます。みんなが使えば、もっと自然が豊かになると思います」と武藤さんはこれからの展望を語ってくれました。ごみ拾いなどで川を物理的にきれいにしていくのと同時に、自然の生態系に戻していくことの大切さを「EM・エコ郡山」の活動の取材を通して学ぶことができました。

●問合せ/EM・エコ郡山  
024・934・5555



▲特許も取得したEM培養ボックス。蛍光灯の光と熱で発酵させることで、一度に24ℓのEMができる